

平成 29 年度 デイサービスひろば 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表 2018 年 3 月 31 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練等スペースとの関係で適切である	4			
	②	職員配置数は適切である	3	1		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4			利用人数が多い時には、1人の職員が複数の利用児をみている。1対1での活動が好ましい利用児がいる時、他の利用児にしっかり入れないと感じることがある
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4			
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		提案されたことはひとまず「やってみよう」といういい環境がある	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向などを把握し、業務改善につなげている	1	3		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している		4		自己評価をホームページで公開し、第三者評価を受けること課題 自己評価を機関紙にも掲載し公表する方法もある
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	職員会議の際ミニ研修を行う（時間の都合でできない時もある）	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		標準化されたアセスメントツールを使用	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	2		今後取り入れていくことが課題
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		常に児童発達支援計画の内容が確認できるようになっている	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		作成されたスケジュールを使い、改善した方がよいところは職員間で話をし変えていく	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		常に前回の活動状態を参考にし、内容を考えている	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		個々の必要性に応じて個別・集団活動の設定した支援計画になっていると思う	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		職員全員で支援開始前に打ち合わせはしていないが、その日のねらいについてや活動の内容確認は適宜行っている 前回の様子を確かしたり、記録で読み返したりしている	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合	4		活動終了後、職員全	

		わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			員で支援の振り返り、保護者の様子、気づき、次回の目標、課題の共有を常に行っている その日の活動で気になった様子があれば職員間で話をして共有する		
	19	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		常に記録にそって課題の共有ができているので、方向性の統一ができています		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3	1			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもなども支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1			該当者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		1		該当者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			必要があれば情報提供をしている 園の先生が活動の様子を見に来られたり、活動の様子をまとめたものを渡したりして、情報を共有している	なかなか直接先生と情報を交換する機会はない。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			必要に応じて情報の共有をしている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		助言をスーパーバイザーより受けている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある		4			交流できる機会は設定していない。関係機関との連携が必要
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等は積極的に参加している	2	2			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			双方の情報交換は毎日行っている 連絡票を通して、最近の様子を聞いたり、活動中にこちらが気づいたこと、疑問に思ったことを聞く	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4			必要に応じて、グループ編成し、適宜行っている 茶話会を通して、子どもへの対応などの支援をおこなっている		
保護者への説明責任等	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			利用を検討されている際、説明を行っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」と示しながら支援内容の説明をおく内、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			支援計画を読みながら説明できる時と、家庭で読んでいただくことがある	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			適宜行っている 子どもの様子聞きつつ、保護者が最近気になっていること	

					などを聞く。外部講師の助言を受けながら、保護者へそれを返していく	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		保護者同士の茶話会の開催を設定し参加を促している	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応している	4		迅速かつ適切に対応している	
	③⑦	定期的に会報等と発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	定期的に会報を発行し配布している	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4		確認し、了承を得た上で取り扱っている	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		配慮している	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	同法人の事業としては、地域住民との交流を図り、互いの活動に参加している	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	1		
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		避難訓練を実施している 災害を想定した避難訓練を行う	
	④③	事前に、服薬や予防接種でんかん発作等の子どもの状況を確認している	4		確認している	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされている	4		対応できるよう、常に目の届く場所に指示書や薬を保管している	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	3		ヒヤリハットを記録していない
	④⑥	虐待を防止するため、職員研修機会を確保する等、適正な対応をしている	4		法人全体での虐待防止委員会の運営を行い、毎年研修会を開催し、多くの職員が参加できる仕組みを作っている	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している			身体拘束の必要性はなく、記録はしていない	